

各 位

会 社 名 株 式 会 社 リ プ ロ セ ル
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 横 山 周 史
問 合 せ 先 取 締 役 経 営 管 理 部 長 帯 田 大 悟
(TEL. 045-475-3887)

Biopta Limited の完全子会社化によるシナジー効果について

この度、当社は平成 27 年 11 月 24 日開催の取締役会において、英国企業である Biopta Limited 社（以下、「Biopta 社」といいます。）の普通株式 100%を取得し、同社を完全子会社化することについて決議いたしましたので、買収の目的及び概要、並びに買収によるシナジー効果について、以下のとおりお知らせいたします。

1. Biopta 社買収の目的及び概要

Biopta 社を買収する目的は、当社の主力事業の一つである製薬企業向けの創薬支援事業の強化を図ることにあります。Biopta 社は製薬企業を主な顧客として、創薬支援サービスを提供してまいりました。同社の創薬支援サービスは、これまでに製薬企業が動物実験により行ってきました探索研究・前臨床試験を、ヒト細胞を活用して研究・試験を行うアウトソーシングサービスです。現在、製薬メーカーが企業内部で実施する動物実験は、高コストかつ長期間に渡って行う必要があり、高精度の実験を適正価格で短期間に行うことができる製薬支援サービスへの委託により代替するトレンドが急速に広がっております。世界の製薬メーカー全体の創薬に係る研究開発費用は年間で 7 兆円以上にのぼり、そのうち探索研究・前臨床試験の占める費用は約 1.75 兆円（全体の 25%）といわれております。当該市場において、急速に拡大する創薬支援サービス事業は大きなポテンシャルを有しております。

Biopta 社は当該領域で、細胞の調達から前臨床試験業務を一貫して行う創薬支援サービス（CRO サービス）を先駆的に展開しており、高い技術力に裏打ちされた確固たる競争優位性と実績を有しております。当社グループは、既存の創薬支援事業（ヒト細胞製品）に、Biopta 社が手掛ける創薬支援サービスを新たに付加して、当該領域における業容拡大を図るとともに、両社の有する競争優位性を相乗的に生かすことで、再生医療参入に向けた強固な事業ポートフォリオを構築してまいります。

Biopta 社の概要

名 称	Biopta Limited
所 在 地	Weipers Centre, Garscube Estate Bearsden Road, Glasgow, G61 1QH, 英国
代表者の役職・氏名	CEO David Cameron Bunton
事 業 内 容	創薬支援サービス（CRO サービス） CRO サービス：ヒト組織を用いた製薬企業向け前臨床試験業務受託サービス
資 本 金	2,129 千ポンド
設 立 年 月 日	2002 年
子 会 社	Biopta Inc. (米国)
従 業 員 数	18 名（グループ）

※ Biopta 社の普通株式 100%のうち、49.74%は当社が Biopta 社の普通株式の現物出資を引受対価として行う普通株式の新規発行により取得し、残る 50.26%は現金により取得いたします。詳細につきましては、本日発表いたしました「Biopta Limited 社の株式取得（完全子会社化）に係る契約の締結、及び第三者割当による新株式発行に関するお知らせ」をご参照ください。

2. Biopta 社の競争優位性

Biopta 社が持つ強みとしましては、大きく以下の3つとなります。

第1に、英国・米国全土に有する医療機関とのネットワークを活用し、法制・倫理規定に則った上で人体から摘出された鮮度の高いヒト組織・臓器をタイムリーに調達できる点です。この豊富な細胞のラインアップから創薬の前臨床段階で求められる部位、疾患状態の細胞を選び出して、個々の顧客が望む薬効・毒性試験サービスをアウトソーシングの形態で提供することが可能となります。また、Biopta 社が取得した膨大な患者の人体組織・細胞に係るデータベースを活用することにより、より高付加価値の創薬支援サービスを提供することが可能となります。

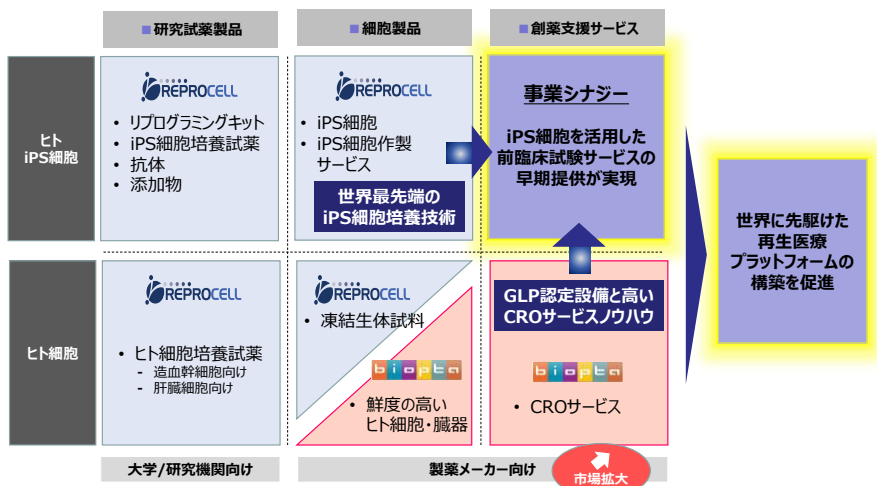
第2に、創薬支援サービスの信頼性を担保する上で遵守すべきガイドラインとなる GLP (Good Laboratory Practice: 試験施設ごとに運営管理、試験設備、試験計画、内部監査体制、信頼性保証体制等に関する基準) に認定された設備・体制を整備し、それを事業に活用する高いノウハウを蓄積している点です。当社グループが創薬評価サービス、更には再生医療への本格的な進出を見据えて事業を展開していく上で、製品・サービスの品質管理のノウハウを高いレベルで蓄積していくことが必要となり、Biopta 社との連携は極めて有効であると判断しております。

第3に、メガファーマの売上上位10社中8社との取引実績を誇り、強固な顧客基盤を形成している点です。また、同社は当該企業とのサービス開発に係る共同プロジェクト運営などの企業間ネットワークを有しております。これにより、当社が製薬メーカー向けにラインアップしている創薬支援製品の販路を拡大できるとともに、製薬領域の最新動向や潜在ニーズを常に捉えられ、それに対応した新製品・サービスの開発を進めることが可能となります。

3. 事業シナジー及び再生医療進出に向けたポートフォリオの構築

当社グループは、これまでにヒト iPS 細胞/ヒト細胞に係る研究試薬製品及び細胞製品を展開してまいりました。この度の Biopta 社買収により、新たに創薬支援サービスが事業ラインアップに加わることで、製薬メーカーを対象とするメインビジネスの製品提供と研究受託の両面をカバーできるようになります。さらに、当社が有する世界最先端の iPS 細胞培養技術と、Biopta 社が有する GLP 認定設備及びそれを運用する高いサービスノウハウを相乗的に生かし、新規事業としてこれまでに前例のない「iPS 細胞を活用した前臨床試験サービス事業」を早期に立ち上げてまいります。これにより、製薬メーカーや医療機関が望む厳しい条件下での細胞をカスタマイズして作製・受託試験できるようになり、急速に拡大しつつある創薬支援サービス市場において、大きな競争優位性を有することとなります。

また、Biopta 社が有する GLP 認定設備及びそれを運用する高いサービスノウハウは、再生医療事業を展開するための要件のクリアに直接的・間接的に寄与し、今後当社グループの早期進出を実現する上で極めて重要なものとなります。当社グループは、ヒト iPS 細胞とヒト細胞に関する研究試薬・細胞製品・創薬支援サービスを網羅的に提供できる事業ポートフォリオを構築するとともに、それによって蓄積される総合的な技術力・ノウハウを駆使して、世界に先駆けた再生医療事業の構築に向けた取り組みを一層強化してまいります。



以上